

ほとけの混和会だより

平成二十九年一月
東光院
仏の混和会
第124号

恭賀新年

年頭に際しまして、
檀信徒、皆様の
健康とご多幸と
心よりお祈り
申し上げます。

平成二十九年元旦



檀信徒の皆様にて、於かれましては益々ご壮健にて、新年をお迎えのことと、心よりお喜び申し上げます。
又、東光院の諸行事にご賛同を頂き、ご協力賜れましたこと、心より御礼申し上げます。
お陰を持ちまして共に御仏の道を精進させて頂く事が出来ました。誠に有りがたいことと存じます。

「流水不腐」

年頭に当たりまして、中国は秦代の政治家・呂不韋の言葉を

耳にしましたので紹介いたします。
これは読んで字の如く、流れる水は腐らないと言う事です。
昨年の私の行動は、当にどの水の如く、物事にこだわり、執着し「よりどころの構築」など大きなスローガンをかかげながらも、一歩たりとも歩むことが出来ず、ただ己を守ることに一生懸命で、己を捨てる事ができず、身も心も淀み腐りかけておりました。

日本の仏様

酉年号



日本仏教に登場する仏様を、毎号少しずつご紹介。今回は今年の干支に因んで、仏教の教えに登場する「鳥」を紹介いたします。

● 共命鳥（ぐみょうちよう）

仏様が住む極楽浄土という世界には色鮮やかな鳥が数多く住むと言われています。その中に共命鳥（ぐみょうちよう）という名前の鳥がいます。共命鳥は美しい身体と美しい声で鳴く鳥で、特徴として一つの身体に二つの頭を持つ変わった鳥です。
この鳥は極楽浄土に生まれる前はとても仲が悪かったといわれています。かつて共命鳥は、片方の頭が「右」と言えばもう一方は「左」と言うように、事あるごとに喧嘩ばかりしていました。身体は一つでも頭は二つあれば性格も考えも違うわけ衝突が起きるのも当然です。毎日毎日争いばかり続けていると、片方の頭が「頭が一つになれば自由になれる」と考えます。



そしてある日、一方の頭は毒の有る木の実に

をもう片方の頭に進め、片方の頭を殺してしまいました。それを喜んだ残った頭でしたが、しばらくすると残った頭の体調が悪くなり倒れてしまいました。
それも当然、頭は二つと言えども同じ身体を共有しているため、片方の頭が毒を食べればもう片方にも毒が回り死んでしまいます。
そして命を落とす瞬間、「今までわがままを言いながらも生きてこれたのは、もう一方の頭がいてくれたおかげだったんだ。」と気づき息絶えました。

この鳥が何を伝えたかったと言いますと、普段私たちは一人で生きていけると思いがちですが、気がつかないだけで、日々多くの命に支えられて生きています。

そうした中、自己中心的な考えでいては相手を傷つけてしまうばかりか、結局は自分自身をも傷つけることになってしまいます。そうした教えを身を以て伝えるため極楽浄土に生まれ変わり、「他を滅ぼす道は己を滅ぼす道、他を生かす道こそ己の生かされる道」と鳴き続けているそうです。

何かと物騒な世の中ですが、お互いの命を大切に、争いの無い一年であるといいですね。

最後となりましたが、本年も変わらぬお付き合いの程、宜しくお願い申し上げます。 亮澄拝

人は、何の為に生きているのかに

NO.2



ねーねーお坊さん、あけましておめでとうございませう。
今年も宜しくおねがいします。ところで、昨年より続いているこの度の課題に付いて、前回「人は仏に成る為に生きている」として「仏に成る為には菩薩として生きる」と教えてくれましたよね。ところで、菩薩として生きるにはどうしたら良いですか？



おめでどう今年も宜しくね。そうじゃな。前回は、この度の課題に対して、いきなり回答を言ってしまったので、さぞ困惑してしまっただろうね。

仏（仏陀）とは亡くなられた人では無く、大自然の真理「永遠の命」に目覚め、大いなる慈愛心を抱いた人で、私達も仏の境地を目指し菩薩として生きる事によつて、「人は何の為に生きているのか」と言う課題も、生きる事の意義も見えてくる、と前回説明したね。
そこで、今回からは菩薩として生きるにはどうしたらよいのか、そしてどのように実践したら良いのか少しづつ、一緒に探ってみようね。

菩薩としての生き方に付いては、伝教大師最澄さんは次のように言っているよ。
道心あるの仏子（ぶつし）、西には菩薩（ぼさつ）と称し、東には君子（くんし）と号す。悪事を己に向え、好事を他に与え、己を忘れて他を利（り）するは、慈悲の極みなり。

要するに、この教えを一言で説明すると、己の「幸」ばかり求めていないで、他の「幸」を願う、他の幸を喜びとするような御心を抱いてごらん。その心を慈悲と言ひ、菩薩と言う。と言っているのじゃよ。
しかし、これはたやすい事では無いのじゃ。たとえば些細な不祥事が発生した時、己の正当化を主張し、他を悪者にして、事を解決しようとするのが私達なんじゃが、菩薩として生きるには、全て私の責任として、他の過ちを包容出来るような、大きく広い御心を抱かなければならないのじゃよ、でもあまり難しく受け止める必要は無いよ。

私達人間は大変弱い生き物だからいきなり仏さんのような御心は抱けないのが普通なんじゃ。
大事な事は相手を許せない己の弱い心が此処に存在している。と言うこの事実を認め、仏様のような御心に少しでも近づけられるように、全て仏

年が明けました



明けましておめでとうございます。昨年の元旦がついこの間の出来事のようにですが、気づけばもう一年経ってしまいました。二〇一六年は陰陽説により「動」の年になるとされていましたが、その通りいろいろな出来事がありました。二〇一七年は落ち着いた年であってほしいものです。

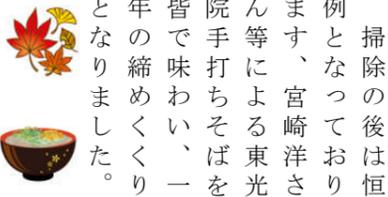
暮れの大掃除を行ないました

さて、新年を迎えるにあたり、去る一月二三日 境内の大掃除を行いました。当日は多くの方が清掃奉仕にお越しくださり、それぞれ一年に積もった煤を落としました。

暮れの大掃除は毎年の行事ですが、毎度様々な方のご尽力をいただき



掃除の後には恒例となっており、宮崎洋さん等による東光院手打ちそばを皆で味わい、一年の締めくくりとなりました。



岩井植木さまありがとうございました

一月八日、檀家総代の岩井植木さまのご奉仕により、県道に面した霊園・境内入り口付近の松の剪定が行なわれました。

当日は寒い中、丸一日かけて三人の職人さんがてきぱきとした仕事ぶりです。伸びきった松をきれいに仕上げてくださいました。改めてお礼申し上げます。



亮敬拝